

⑥5 大船渡港清水地区災害復旧事業

受賞機関 岩手県 沿岸広域振興局 土木部 大船渡土木センター

キーワード 施工ヤードの確保、養殖業に配慮した施工、水門・陸閘自動閉鎖システム

全建賞審査委員会の評価ポイント

防潮堤等の津波防御対策工事。地元の漁業関係者と施工計画や工程の調整を密に行い、仮栈橋設置による海側への施工ヤード確保や汚濁防止膜の設置の工夫により地域産業の牡蠣養殖業への影響が出ないようにすることで年間を通しての工事を行い、防潮堤等の津波防御対策の整備に対応した点が評価された。

1. はじめに

岩手県沿岸南部に位置する大船渡市では、天然資源に恵まれた好漁場を有していることから、水産業が基幹産業となっており、特に清水地区では、ブランド牡蠣の養殖業が盛んに営まれている。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の津波では、T.P.+9.6m（痕跡値）を記録し、港湾施設や漁業施設等に甚大な被害をもたらした。

2. 事業の概要

大船渡港清水地区では、住民の命と安全な暮らしを守るため、数十年～百数十年程度に発生する確率の高い津波（いわゆるレベル1津波）を想定して、堤防高さをT.P.+7.5mに設定し、既設防潮堤及び陸閘の嵩上げ復旧を行った。

防潮堤等の総復旧延長は約0.97kmであり、複雑な現場条件への対応や養殖業を行いながらの工事であったため、周辺環境への配慮が必要であった。

防潮堤の施工に当たり、施工箇所の近傍に漁業者の住宅があり、陸上からの施工が困難であったことから、海側に仮栈橋を設置し、施工ヤードを確保した。

また、工事により発生する濁り等が牡蠣の生息に影響



養殖業に配慮した施工状況

を及ぼさないよう、多重の水質汚濁防止対策を講じたほか、漁業の作業状況に合わせ、柔軟に工事工程を見直すなどの綿密な対応を行い、漁業者の理解を得ながら令和4年9月に無事工事を完了させることができた。



完成した防潮堤

3. 事業の成果

大船渡港清水地区の防潮堤等が完成したことにより、背後地の津波に対する安全度が大きく向上した。

また、岩手県では、東日本大震災の際に水門・陸閘の現場閉鎖作業に従事した多くの操作員が被害に遭ったことから、全国瞬時警報システム（Jアラート）を利用し、現地に行かなくても水門・陸閘を自動閉鎖する「水門・陸閘自動閉鎖システム」を採用している。大船渡港清水地区の陸閘でも当該システムを採用しており、津波襲来時に安全かつ迅速・確実に防護機能を発揮することが可能となった。

4. おわりに

防潮堤完成後は、職員を対象とした「水門・陸閘自動閉鎖システム」の操作訓練を月に1回程度実施し、甚大な被害をもたらした東日本大震災での教訓を忘れることがないように次世代に継承していきたい。

今日まで復旧・復興を御支援いただいた応援職員や全国の自治体をはじめとする関係団体の皆様にあらためて感謝を申し上げます。

賛助会員 りんかい日産建設(株)